

派遣者番号	28J02	氏名	土屋 美奈
研究主題 —副主題—	東京都立特別支援学校における「社会性の学習」の系統性に関する研究		
派遣先	東京学芸大学大学院	担当教官	奥住 秀之
所属校	都立品川特別支援学校	校長	平塚 雄二

キーワード：「社会性の学習」、系統性、Vineland-II 適応行動尺度、職業準備性

1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

都立知的障害特別支援学校小・中学部には、自閉症スペクトラム(以下ASD)の児童・生徒で編成した「自閉症学級」がある。その教育課程の中心として導入された授業が、「社会性の学習」である。学習内容は、ASDの児童・生徒への社会性に関わる指導・支援であり、「対人関係に関する内容」と「ソーシャルスキルに関する内容」を基本としている。

しかし、「社会性」を学習することが困難なASD児に対し「社会性」をのばす目標を掲げ、卒業後の生活に必ずしも必要とされない力が教育目標になっている(梅永、2012)。「社会性の学習」は高等部にはなく、「自閉症教育の充実について(中略)小学部から高等部卒業まで、一貫性をもって実施していくことが大切である」(東京都教育委員会 2017)、「学校と社会が同じ目標を共有し、連携・協働した「社会に開かれた教育課程」の実現が望まれる」(中央教育審議会 2016)といった指摘がある。学校内にとどまらず、社会にまで意識を向けた「社会性の学習」の系統性についての研究は、管見の限り見当たらなかった。

以上のことから、都立特別支援学校における「社会性の学習」の現状について、一貫性や系統性があるかを検討し、年齢段階に応じたASDの児童・生徒に必要な「社会性」を整理し、卒業後の生活を見据えた系統的な「社会性の学習」を教育現場で実現していくための具体的な取組を検討していくことを目的とする。

2 研究の内容・研究の方法

(1) 「社会性」の検討

「社会性」の定義は、広義では生活習慣、価値規範、行動基準などに沿った行動がとれる「全般的社会適応性」を指す(繁多 1991)。小貫(2009)は、「学校社会」と「一般社会」とでは、「必要な社会的スキルは異なる」と指摘する。「社会性の学習」における「社会性」とは、「ASDの三つ組みの障害である社会性の障害、コミュニケーションの障害、想像力の障害」(Wing1996)と関係があると考えられ、社会で生活していく上での困難さと関係している内容を指す(東京都教育委員会 2011)。

「一般社会」「学校社会」「社会性の学習」のそれぞれには、求められる「社会性」に違いがある。「一般社会」の「社会性」と関連する適応行動の基準となる

「Vineland-II 適応行動尺度」(辻井 2014)と、社会参加に必要な職業生活の基準となる「職業準備性」(松為 1998：高齡・障害・求職者雇用支援機構 2017)と、「社会性の学習」の三者の有機的な連関を明らかにすることで、卒業後の生活を見据えた系統的な「社会性の学習」を検討できると考える。

(2) 研究の内容・方法

研究は、検討Ⅰ～検討Ⅳで構成される。

- ・検討Ⅰ：「社会性の学習」における指導目標・内容の現状調査。都立知的障害特別支援学校の抽出校8校の年間指導計画を収集し、Vineland-IIにて分析した。
- ・検討Ⅱ：小・中・高等部において必要とされる「社会性」や「社会性の学習」全般に関する調査。都立知的障害特別支援学校の教諭を対象に質問紙調査を実施した(回収率73%)。
- ・検討Ⅲ：職場や社会におけるASDの方々の方々の状況と必要とされる「社会性」に関する調査。企業や事業所を対象に、半構造化面接を用いた訪問調査を実施した。
- ・検討Ⅳ：検討Ⅰ～検討Ⅲの知見についての確認調査。抽出校6校の学部主幹教諭を対象に、半構造化面接を用いた訪問調査を実施した。検討Ⅰ～検討Ⅲで得られた結果について、教育現場の観点から意見を聞いた。

3 研究の結果

【検討Ⅰ】全体を通して、「対人関係」「遊びと余暇」「地域生活」「表出言語」「コーピングスキル」の内容が多く扱われており、東京都教育委員会の提示した活動例とほぼ一致していた。しかし、「社会性の学習」における「社会性」の一貫性や系統性の不十分さが示唆された。

【検討Ⅱ】①「ソーシャルスキルに関する内容」と関連のある下位領域の数値はあまり高くなく、指導者によってばらつきがあると考えられる。

②小・中学部では、各領域において「必要である」、「必要でない」の差があるが、高等部は全てにおいて「必要である」と評価した。小・中学部の「社会性の学習」における「社会性」は焦点化されており、高等部の「社会性」は幅広いものであると考えられる。(①②)については、

表1 「社会性の学習」で付けたい力は何か、小・中・高等部の回答比較

Vineland-II	1.受容言語	2.表出言語	3.読み書き	4.身辺自立	5.家事	6.地域生活	7.対人関係	8.遊びと余暇	9.コミュニケーション	10.拡大運動	11.微細運動
小	3.82	3.65	2.66	3.03	2.93	2.94	3.92	3.78	3.41	3.00	2.79
中	3.72	3.68	2.64	2.96	2.76	3.20	3.84	3.48	3.48	2.52	2.68
高	3.88	3.70	3.12	3.79	3.33	3.18	3.73	3.45	3.55	3.21	3.15

表1を参照)

③引き継ぎについての調査では、全ての学部において引き継ぎが不十分であることが示唆された。

④構造化の実施については、小学部>中学部>高等部という結果であった。

【検討Ⅲ】①職場や社会で必要とされる「社会性」は、職業準備性の「基本的労働習慣」「対人技能」

「日常生活管理」と関連がある。②学校からの移行「4」とも必要である、「3」必要である、「2」あまり必要ない、「1」必要ない支援は不十分であり、要因として学校における「社会性」と企業における「社会性」に違いがあることが示唆された。③ASD者への環境設定は、ジョブマッチングが最も多い。学校のような構造化ではなく、作業効率を高めるためのミニマムな構造化である。

【検討Ⅳ】①構造化の捉え方が学部によって違う。②学部による「社会性」のニーズや構造化の考え方の違いは、児童・生徒の実態の違いに影響している。小学部から特別支援学校に在籍している生徒は、高等部から在籍する生徒より知的障害の程度や自閉的症状の程度は重度である。高等部に在籍する企業就労を目指す生徒にも「社会性の学習」は必要であるという意見もあった。

4 研究の考察

検討Ⅰ～検討Ⅳで得られた知見を基に、学校現場で系統性ある「社会性の学習」を実現していくための構想を展開する。①「社会性の学習」とVineland-II、職業準備性との関連を明らかにした。それにより、「対人関係に関する内容」と「ソーシャルスキルに関する内容」のそれぞれを段階別に分けることができた。②従来の活動例を整理し、系統的に並べ変えて活動整理表を作成した(表2)。③「社会性の学習」の活動整理表を基に、各教科に合わせた指導と関連付け、キャリア教育に生かしていく。④系統的な「社会性の学習」を実現するための3つの要素の整理。⑤系統的な「社会性の学習」の3つの要素における具体的取組(図1)の提案。

表2 「社会性の学習」活動整理表

社会性の学習			Vineland-II	
学習内容	技能	学習内容	活動例	質問項目
対人関係に関する内容	① コミュニケーションの基礎的能力	挨拶と握手を含む。同じ身体遊びに取り組み	遊びと余暇	3他の人と簡単なやり取り遊びをする
		徐歩の共有	遊びと余暇	6他の子どもと遊ぶことを行う
		呼びかけに応える	受容言語	3名前を呼ばれると反応する
		日談の挨拶	対人関係	5社会的なコンタクトをとる。あるいはとうとうとする
		教師とインタラクションで集められる経験を含む	受容言語	5「いいよ」といって言葉やジェスチャーを理解して行動する
	② 対人的コミュニケーション	友だちの写真を鑑賞し、写真カードを教師に渡す	受容言語	61つもの動作、1つ2つの具体物を含む指示に従う
		教師の指さしたところを指さす	受容言語	61つもの動作、1つ2つの具体物を含む指示に従う
		係活動・お手伝い活動/たのまれた物をとりいこう	表出言語	611つもの動作、あるいは1つ2つの動作と2つの具体物を含む指示に従う
		やりたい気持ちを表出する	表出言語	6活動をやめたか/ついに終わったか/ついに、声をだしたり身ぶりを表す
		相手を意識して名前を呼ぶ	表出言語	16きょうだいや友だちの名前や愛称を用いたり、尋ねられると答えたりする
ソーシャルスキルに関する内容	① 整理整頓	取っかけておいておく/だてておく/たたむ	表出言語	13.19名前や活動を使った簡単な文話す
		発声や動作の模倣	対人関係	11.12簡単な動きをまねる
		手遊び/遊び/フォーマットの模倣	対人関係	11.12簡単な動きをまねる
		指導者への注目と模倣/指示の動きの模倣	対人関係	11.16比較的複雑な行動をまねる
		意思・行動の共有	遊びと余暇	8.11.2人以上の子どもの5分以上協力して遊ぶ
	② マナー	相手の動きに合わせた協調活動	遊びと余暇	10.15.17.20.21.着わねなくても交遊できる
		ルール、順番の理解	対人関係	10.15.17.20.21.着わねなくても交遊できる
		役割交換	対人関係	15.21.着わねなくても交遊できる
		人を意識し、よける学習/適切な距離を保つ	対人関係	26自分と他の人の距離を適度に保てる
		人から頼まれた時の行動の理解	対人関係	23.24.他の人に手助けをする
職業生活に関する内容	③ 職業生活に関する内容	家族の予定を考慮して休日の過ごし方を計画する	家事	33.物事を計画したり、役割を分担することに協力する
		物事を整理して片付ける	家事	7自分の物を整理しなくても片づけることができる
		整理・清掃用具の安全な使用/目的に応じた身の回り品・用具の整理	家事	15.10.11.14.15.道具を使う
		歩速や道の向きを判断/歩速や信号の確認	地域社会	7.8.10.11.信号を守ることができる
		電車やバス利用/公共施設の利用	地域社会	17.35.よく知っている場所であつとも10~15mの移動をする
	④ 職業生活に関する内容	買物の手順/金銭の支払い	身辺自立	5.14.20.22.23.25.30.おつくりが計算できる
		身だしなみ/適切な服装	身辺自立	24.35.自分で髪を洗って乾かすことができる
		季節や気候に合った服を選択する	身辺自立	36.雨や寒い天候のときに、自分で適切な衣服を着ることができる
		困ったときに気持ちを伝える「教えてください」	コーピングスキル	6何かを頼むときは「おねがい」~してくださいなどと言う
		物を借りたときの返す方	コーピングスキル	6何かを頼むときは「おねがい」~してくださいなどと言う

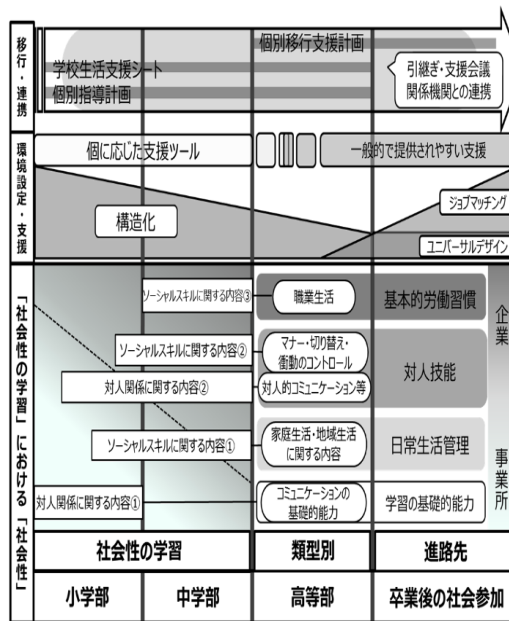


図1 系統的な「社会性の学習」の3つの要素における具体的取組

5 今後の展望

本研究では、従来の「社会性の学習」に、適応行動、移行支援、年齢段階に応じた「社会性」という新たな要素を加え検討することができた。しかし、「社会性」は時代に応じて変化していくものであると考える。「社会性」を随時見直ししながら、系統性ある「社会性の学習」の実現が望まれる。

